

令和4年度 港区立南山幼稚園経営計画

1 目指す幼稚園像

南山幼稚園の今年度の園児数は、3歳児25名、4歳児22名、5歳児27名で総園児数は74名である。在籍する外国籍の幼児数が増え、通園している範囲も広い。隣接する南山小学校との交流、連携は、コロナ禍でもやり方を工夫することで継続することができ、幼小連携において充実した教育活動が積み重ねられている。また、近隣の高等学校や麻布商店街他、地域との交流も行うことができている。本園は、創立88年を迎え、地域に親しまれている歴史のある幼稚園である。

教育課程における幼稚園教育目標を達成するための基本方針の3つの柱を中心に、港区教育ビジョン、港区学校教育推進計画及び港区幼児教育振興アクションプログラムと併せて、幼稚園教育において育みたい資質・能力を明確にした「南山幼小連携プログラム」、改善を重ねている「年間指導計画」を引き続き活用し、小学校以降の教育を見通した幼稚園3年間の充実した教育を推進し「夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども」を目指し、その姿を育んでいく。

また、港区学校教育推進計画より①幼児が安全で安心して過ごすことができる幼稚園②幼児が生き生きと楽しく遊び、学ぶことができる幼稚園③保護者・地域に信頼される幼稚園を幼稚園経営の視点におき、コロナ禍においても幼児の学びを止めない方針で教育活動を工夫して展開する。そして、これらの教育活動を充実させることで幼児・保護者・地域・教師が共に笑顔がいっぱいになり、それらがつながることで心豊かな毎日になるように幼稚園経営を進める。

目指す幼稚園像

◎幼児・保護者・地域・教師の笑顔がつながる幼稚園

2 幼稚園の教育目標

人権尊重の精神に基づき、幼稚園・家庭及び地域社会の連携を基に、心身ともに健康で自ら主体的に遊びや生活に取り組み、よく考え、様々な人との関わりを深め、豊かな学びを創り出す幼児を育成するため、次の目標を設定する。

○げんきな子 ○よくかんがえる子 ○なかよくする子

3 目指す教師像

新しい教職員構成で互いに切磋琢磨しながら、チームとして力を発揮し、幼稚園の教育活動や幼児の成長における実りある日々を過ごすために、目指す教師像を以下のとおりとする。

自分でよく考え、主体的に行動し、豊かに学ぶ教師

- 一人ひとりの幼児の心に寄り添い、指導力向上のため努力する。
- 自分でよく考え、主体的に行動する。
- 互いに実践を語り合い、学び合い、高め合う。
- 保護者・地域から信頼される。

4 中期的経営目標と方策（令和4年度～令和6年度）

- (1) 教育目標「げんきな子 よくかんがえる子 なかよくする子」を目指し、改善した「年間指導計画」に基づいた3年間の幼稚園教育の視点を明確にした実践をする。
- (2) 港区立南山小学校と同一敷地内にある恵まれた立地と特色を生かし、連絡調整をしながら小学校校庭、1階2階の保育室・遊戯室を意図的・計画的に活用するとともに、園舎内外において幼児同士の関わりが深まる教育活動を充実させる。また、園舎・園庭・保育室は、幼児の生活に即して整備や改善を進める。
- (3) 南山の教育を創造し、幼児理解に努めながら幼児の成長に喜びを感じる教職に携わる者として、誇りと責任、情熱をもって教育にあたる教職員集団となる。
- (4) 幼稚園を地域に開き、親しまれることで、地域の方が園の教育のよき理解者となってくださる区立幼稚園となることを目指す。そのために、地域への情報発信を工夫するとともに、地域の方の教育力を教育活動に生かすとともに、信頼関係を強固なものとする。また、学校運営協議会を学校運営協議会委員の方々、南山小学校と協働で会の運営を進め、いただいた意見を活かし教育内容の充実を目指す。
- (5) 港区立幼稚園のよさをアピールし、区立幼稚園の入園者の増加に向けて改善を行う。

5 令和4年度重点目標

コロナ禍においても、幼児・保護者・教師・地域がつながる園運営を行い、笑顔があふれ、気持ちがつながることで、心豊かな生活をつくる。

○幼児にとって

- ・教職員がチームとなり教育活動を展開する。教職員がそれぞれの立場で一人ひとりに寄り添うことで、幼児を多面的に理解し、成長につながる援助の方向性を明らかにする。
- ・学級や学年間の交流を大切にし、幼児たちが自然の形で遊びの豊かさや生活の仕方が伝わるようにする。

○保護者にとって

- ・幼稚園と保護者がコミュニケーションを取り連携を強化するとともに、保育参加やドキュメンテーション、その日の出来事ニュース等、様々な方法で幼児の様子が伝え共有する。
- ・幼稚園での活動において、保護者間のコミュニケーションづくりをし、親睦が深められようにする。

○教職員にとって

- ・教職員間で共有した各学年の指導の観点を基に、自信をもって指導を行う。
- ・働き方改革を推進し、ワークライフバランスを保ち、健康で意欲的に過ごす。

5 感染症対策

- ・3つの密を回避するとともに、室内の換気や手洗いを徹底する生活を送る。特に昼食時の環境を整え、黙食、時間の設定、食後の清掃等に注意を払う。
- ・幼児の活動時には、人の密集、人との距離、共同行為についての視点を持ち、指導形態や指導方法を工夫して行う。
- ・幼児・教職員の登園前の検温・体調管理のチェック、来園者の検温等を行う。

6 教職員の働き方改革

教育内容の質、教員自身の指導力の向上を目指し、効率性・効果性を考えた園運営を3つの視点から実施することで働き方改革を推進する。

(1) 働き方改革における教員

- ・勤務時間における時間感覚の意識
- ・園務分掌の実施に向けての工夫

(やることリストの共有化、二人体制での相談、助け合い)

- ・効果的・効率化を図るシステムの構築（週案作成に関わる工夫他）

(2) 教育の質の向上

- ・学年会におけるPDCAサイクルを通しての振り返りや教育内容の共有化
- ・日々の報告・連絡・相談の徹底
- ・OJTによる指導力の向上
- ・チームで進める教育活動（指導の方向性の共有化）の充実
- ・教材開発と3年間の指導の明確化
- (アプローチカリキュラムの検証と遊びや経験の伝承内容の把握)

(3) きめ細やかな幼児への指導

- ・異年齢の関わりの充実
- ・丁寧な保護者対応
- ・教育内容の発信の工夫（ブログ、ドキュメンテーション、学級だより、園だよりその他）

7 その他

- (1) 外国籍の幼児や海外から帰国した幼児など、言語・文化の異なる幼児も含め、一人ひとりの個性に応じた指導を充実し、多様性を尊重する態度や姿勢を育む。
- ・自動翻訳機、翻訳タブレット等の機器、必要となった翻訳メモ、配付物の作成等、伝達事項では丁寧な関わりを心掛ける。
- ・各自が英語力の向上を図るとともに、言葉のみならず、表情や関わり方などでは、それぞれが持ち味を生かしたやり方で全ての幼児、保護者とのコミュニケーションを充実させる。

(2) 南山小学校、六本木中学校や都立六本木高校との連携、麻布十番商店街との緊密な連携を推進し、地域の幼稚園としての信頼が得られるようにする。

- ・南山小学校5年生、1年生を中心とした交流活動、小学校との合同行事を引き続き充実させ、互恵性のある教育活動を継続させる。
- ・六本木中学校の職場体験や都立六本木高校の生徒との畑での交流を引き続き充実させ、豊かに人との関わる体験をさせる。
- ・麻布十番商店街の方との味噌づくり、こいのぼりや七夕飾りを届け飾っていただくこと、麻布十番商店街の広報誌「十番だより」への教育内容の発信、高齢者との関わりなど、園と地域との関わりを継続、充実させる。